

# 「子どもの学力を伸ばす朝の読書」

全国朝の読書連絡会

会長 栗原 勝

はじめに・・・OECD（経済協力開発機構）2003年国際学習到達度調査で、日本の子どもの読解力低下が明らかに 「朝の読書」の役割が増大

豊かな心と学力向上の基盤を熟成する「朝の読書」

## 1 「朝の読書」の理論と実践

(1) 「朝の読書」とは

(2) 「朝の読書」は、いつ、どこで、だれが、なぜ、どのようにして、始められたか

(3) 心の教育と「朝の読書」

(4) 子どもたちの本離れと「朝の読書」

ア 深刻な子どもたちの本離れ

イ ほとんどの子どもたちが本を読めるようになった「朝の読書」

(5) 「朝の読書」の4原則は、教育の原点に立った実践

ア 好きな本を（読む本は好きな本でよい）ということの教育論的意義

イ みんなで（全校一斉に、教師も共に読む）ということの教育論的意義

ウ 毎朝10分（毎日、朝、10分だけ読む）ということの教育論的意義

エ ただ読むだけ（ただ読むことだけに集中し、読書感想文など求めない）ということの教育論的意義

(6) 「朝の読書」の効果と授業論的意義

ア 直接的な効果

イ 内面的な効果

ウ 授業論的意義

どの子ども生き生きと学び分かる授業を行うことの困難さ

「朝の読書」はこの困難さへの挑戦の中から生まれた

## 2 「朝の読書」に関する本

## 3 「朝の読書」の実践とその効果

- (1) 千葉県・私立船橋学園女子高校における生徒の変容
- (2) 埼玉県・白岡町立南中学校における実践と生徒の変容
- (3) 埼玉県・越谷市立南中学校における実践と生徒の変容
- (4) 埼玉県・岩槻市立慈恩寺中学校における実践と生徒の変容

## 4 「朝の読書」の実施状況 小学校87%、中学校75%、高校31%、平均75%（全国約4万校中、約3万校で実施）

本当の学力は国語力が基礎、国語力は読書が基礎、即諸派「朝の読書」が土台

～みなさんや、生徒、保護者の方々に、ぜひ読んでほしい本の紹介～

### 1 本当の学力は国語力が基礎『本を読む子は必ず伸びる』樋口雄一著（すばる舎刊）

#### (1) 今こそ、本が持つ力を見直すべき～「読書」を勧める理由

ア 「読書」の楽しさ（魅力）を身に付ける～豊かな心と人間性を育てる

イ 「読書」が学力アップの土台～「基礎学力の基礎は読書」(栄光ゼミのPR文)

学力を伸ばす勉強法の中で、「読書」に勝ものはない

日本の子供の国語力が低下している理由はただ一つ、本を読まなくなったから

本を読むことは、すべての教科の基礎「本当の学力」を付ける近道

本を読む子は、中学・高校でいざ受験勉強を強いられたとき、大学生や社会人として

真の勉強を迫られたとき、グングン伸びる

#### (2) 子どもが伸びるかどうかは、「国語力」が決め手

ア 小・中学生のうちに身に付けさせべき「国語力」とは

読解力 思考力・論理力 表現力・文章力 総じて言語操作能力（言葉の力）

イ 「国語力」が、あらゆる教科の学力の基盤

教科書の文章を理解する力 文章題を読み解く力 選択肢問題を理解する力 計算や暗記が得意なのに成績が伸びないという子は、「国語力」のなさが原因 「読書習慣」のある子は、物を読み、勉強する集中力や忍耐力が付いてくる

ウ 「国語力」は、「読書」が育ててくれる

国語力は、国語の授業をしっかりと受けていけば身に付くというものではない

それを、唯一、補ってくれる最良のものが「読書」～「習うより慣れる」

読解力・思考力・表現力は、短期間で習得できるものではない～日ごろから本を読む

を読んでいる子はこの点が強。本当の学力が身に付いている

エ インターネットでは絶対に太刀打ちできない、本の効用

本は、上記のような「国語力」の他に、「知識の全体像」を吸収できる

ネットは膨大だが「断片的で細切れの知識」しか得られない

(3) 本を読む子は、心も豊か

ア 人の痛みが分かる(思いやりの心)

イ 世の中には、多様な生き方や価値観があることが分かる(広い心)

ウ 優しく、且つたくましい心(人間性ゆたかな子)

2 読書は教育の基本、朝の読書は教育の本道～『読書力』斎藤孝著(岩波新書)

3 テレビばかり見ているとバカになる、考える力を養う最たるものは読書

～『今、読書が日本人を救う』鈴木健二著(グラフ社)

別刷りの資料を参照

#### 栗原 勝 氏(くりはら・まさる) プロフィール

埼玉県春日部市立豊春中学校を振り出しに、県内5校の教諭・教頭を経て、平成8年4月白岡町立南中学校長に。

白岡南中学校長1年目の秋に林公氏が提唱した「朝の読書」と出会い、平成10年4月から全校一斉の「朝の読書」を実践。その後、越谷市立南中でも実現。平成12年、「埼玉県朝の読書連絡会」を結成し会長に。平成14年林公氏と共に「全国朝の読書連絡会」(初代会長林公氏)を設立し事務局長に。平成16年3月岩槻市立慈恩寺中学校長を最後に定年退職。退職後も「朝の読書」活動の普及と向上のために活動、平成16年には林公氏に替わって第2代会長に就任、現在に至る。

著書には、共著で『心を育てる朝の読書』(教育開発研究所)、『全国教育新聞』に「シリーズ朝の読書」を106回連載中、その他『教職研修』『MOKU』『教育ながさき』『日本教育新聞』『読売家庭板・ヨミー』等々に多数執筆。講演・シンポジウム等にも文科省・広島県教育委員会・長崎県教育委員会をはじめ、多数の市町村教育委員会・各種団体・学校等の講師として出席。